



# 日本の国際協力

## 第1部

### 転換期の日本の開発援助

<b>第1章 国際協力の今日的な役割</b>	2
● 第1節 国際協力の基本的な意義	2
1. 日本の国際協力の使命	2
2. ミレニアム開発目標(MDGs)の進ちょく状況	2
3. 第4回アフリカ開発会議(TICADIV)とG8北海道洞爺湖サミット	3
4. 日本の国際協力の重点事項	3
(1) 環境・気候変動への取組	3
(2) 開発途上国の経済成長と日本の経済的繁栄の実現	3
(3) 民主化定着・市場経済化支援	5
(4) 平和の構築・テロとの闘い	5
(5) 人間の安全保障の確立	5
5. 外交基盤の形成	5
(1) 幅広い扱い手による日本の国際協力の推進	5
(2) 世界に支持された日本方式	8
❖ モンゴルにおける親日感の醸成	9
❖ 青少年交流や留学生の受入	12
6. 政府開発援助予算の最近の状況	12
● 第2節 国際経済環境の変化と国際協力	14
1. グローバル化と開発途上国	14
2. 開発イニシアティブと経済連携協定(EPA)の推進	14
(1) 開発イニシアティブ	14
(2) 経済連携協定(EPA)の推進	16
3. 開発における企業の貢献と官民連携の推進	17
(1) アフリカにおける感染症対策	17
(2) アフリカにおけるレアメタル事業	19
(3) アフリカにおける基幹産業の再建	19
4. 資源・エネルギーの確保と国際協力	19
● 第3節 気候変動問題	21
1. 地球温暖化問題の深刻化	21
2. 日本の途上国支援における気候変動対策	22
3. 日本の「美しい星50」提案	24
[囲み1] クリーン開発メカニズム(CDM)への政府開発援助の活用について	25
4. 日本のリーダーシップ	26

<b>第2章 国際的な援助潮流と日本の取組</b>	27
● 第1節 國際的な援助の動向	27
1. 変化する援助環境	27
(1) 援助における成果重視の定着	27
(2) 新たな援助主体の台頭	27
2. 近年の援助の潮流	29
(1) 援助量の拡大～援助資金拡大に向けた取組の強化～	29
(2) 援助配分の見直し～アフリカ重視～	30
(3) 援助の質の改善～援助効果向上に向けた取組～	30
3. 援助効果向上の取組における課題と日本の対応	31
(1) 調和化の促進と目に見える援助	31
(2) 一般財政支援の意義	31
(3) 被援助国の自主性の尊重と日本国民への説明責任	32
[図み2] 「援助効果向上に関するパリ宣言」とそのフォローアップ	33
● 第2節 日本の開発援助の特徴	34
1. 開発途上国の国民の力を引き出す(自助努力支援)	34
2. 日本の知見や技術を伝える	34
❖ 日本の技術協力と有償資金協力の強み	35
3. 開発途上国の民主化定着・市場経済化を支援する	36
[図み3] 国際緊急援助隊20周年を迎えて	38
● 第3節 人間の安全保障	41
1. 「人間の安全保障」とは何か	41
2. 「人間の安全保障」の登場と発展	41
3. 人間の安全保障に対する日本の取組	43
(1) 人間の安全保障基金	43
(2) 草の根・人間安全保障無償資金協力	44
[図み4] 草の根・人間の安全保障無償資金協力	46
<b>第3章 政府開発援助改革の進展</b>	48
1. 戦略性の強化(「選択と集中」)	48
(1) 外交政策を踏まえた国際協力の推進	48
(2) 「国際協力に関する有識者会議」	49
2. 援助の効果的な実施	50
(1) 二国間援助と国際機関を通じた援助の連携	50
(2) 異なる援助手法間の連携の促進	51
❖ JICAの改革への取組と新JICA設立に向けた準備	51
[図み5] 二国間援助(バイ)と国際機関(マルチ)を通じた援助の連携事例	52
(3) 円借款の迅速化	54
❖ 円借款における本邦技術活用条件制度(STEP:Special Terms for Economic Partnership)	54
3. 国民との連携の強化	54
(1) 官民連携の推進	54
(2) NGOとの連携	54
4. 質の改善努力を継続するために	56

<b>特集団み 元気なアフリカを目指して</b>	58
1. アフリカが直面する困難と希望	58
2. 遠くて近いアフリカ	58
3. 日本のアフリカ支援の考え方～TICADが果たしてきた役割～	58
4. TICADⅣに向けて～元気なアフリカを目指して～	60
❖ 通関手続き円滑化のための支援	60
❖ アジアとアフリカの南南協力の推進	61
❖ アフリカにおける医療協力と「野口英世アフリカ賞」の創設	62

## 第二部

# 2006年度の 政府開発援助実績

<b>第1章 実績から見た日本の政府開発援助</b>	66
<b>第2章 日本の政府開発援助の具体的取組</b>	72
● 第1節 政府開発援助大綱の基本方針に関連した取組状況	72
● 第2節 課題別の取組状況	73
1. 持続的成長	73
(1) 経済社会基盤(インフラ)への支援	73
(2) 政策立案、制度整備	76
(3) 人づくり	78
(4) 情報通信技術(IT)	82
(5) 貿易・投資の円滑化	84
(6) 政府開発援助以外の公的資金(OOF)および民間部門との連携	88
(7) 債務問題への取組	90
2. 社会開発への支援	91
(1) 教育	91
(2) 保健医療・福祉	96
(3) 水と衛生	100
[図み6] 水と衛生分野に対する日本の取組～2008年国際衛生年に向けて～	102
(4) 農業・農村支援／水産	105
(5) 社会的性差(ジェンダー)	109
3. 地球的規模の問題への取組	110
(1) 環境問題	110
(2) 感染症	114
(3) 人口	121
(4) 食料	121
(5) エネルギー	123
(6) 防災と災害復興	125

(7) テロ・海賊	130
(8) 麻薬	132
(9) 國際組織犯罪	133
4. 平和の構築	134
(1) イラク	136
(2) アフガニスタン	140
(3) スーダン	143
(4) アフリカ(サブ・サハラ)	147
(5) 対人地雷・小型武器	148
[図み7] 文化無償資金協力	150
● 第3節 地域別の取組状況	152
1. 東アジア地域	152
2. 南アジア地域	156
3. 中央アジア・コーカサス地域	161
4. アフリカ(サブ・サハラ)	163
5. 中東	169
6. 中南米	173
7. 大洋州	178
8. 欧州	180
● 第4節 援助に関する国際的な動き	182
● 第5節 援助実施の原則の運用状況	186
● 第6節 援助政策の立案および実施における取組状況	189
1. 援助政策の立案および実施体制	189
(1) 一貫性のある援助政策の立案	189
(2) 関係府省間の連携	190
(3) 政府と実施機関との連携	190
(4) 政策協議の強化	191
(5) 現地機能の強化	191
(6) 内外の援助関係者との連携	194
2. 国民参加の拡大	199
(1) 国民各層の広範な参加	199
(2) 人材育成と開発研究	199
(3) 開発教育	204
(4) 情報公開と広報	204
3. 効果的実施のために必要な事項	208
(1) 評価の充実	208
(2) 適正な手続きの確保	210
(3) 不正、腐敗の防止	210
(4) 援助関係者の安全確保	211

## 第三部

# 資料編

<b>第1章 日本の政府開発援助予算</b>	214
● 第1節 2007年度政府開発援助予算(当初予算)	214
図表III-1 政府開発援助予算	214
図表III-2 一般会計予算	214
図表III-3 政府開発援助事業予算の内訳	215
図表III-4 政府開発援助一般会計予算 [政府全体]	216
図表III-5 政府開発援助事業予算 [政府全体]	216
図表III-6 政府開発援助事業予算の財源と援助形態別歳出項目	217
● 第2節 各省庁の事業予算(当初予算)と事業概要	218
図表III-7 省庁別政府開発援助予算推移(一般会計予算)	218
図表III-8 省庁別政府開発援助予算推移(事業予算)	218
図表III-9 各省庁の事業予算(2007年度事業予算)と事業概要	219
<b>第2章 日本の政府開発援助実績</b>	226
● 第1節 開発途上国への資金の流れ	226
図表III-10 日本から開発途上国への資金の流れ	226
図表III-11 二国間政府開発援助所得グループ別配分(DAC分類)	227
● 第2節 援助形態別実績	228
図表III-12 援助形態別政府開発援助実績	228
● 第3節 地域別実績	229
図表III-13 二国間政府開発援助の地域別・形態別配分	229
● 第4節 国別実績	230
図表III-14 国別・援助形態別内訳	230
図表III-15 二国間政府開発援助形態別30大供与相手国	236
図表III-16 日本が最大の援助供与国となっている国一覧	238
図表III-17 日本がこれまでに政府開発援助を供与したことのある国・地域一覧(2006年実績まで)	239
● 第5節 分野別実績	240
図表III-18 二国間政府開発援助分野別配分	240
● 第6節 国際緊急援助実施状況	241
図表III-19 緊急援助実績(「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」施行以降)	241
図表III-20 国際緊急援助体制による国際緊急援助隊派遣および物資供与実績(2006年度)	242
● 第7節 NGO等が実施する開発援助関連事業への支援状況	243
図表III-21 2006年度日本NGO連携無償資金協力の実績	243
図表III-22 2006年度日本NGO連携無償資金協力分野別実績状況	243
図表III-23 DAC諸国のNGOによる援助実績	244

● 第8節	国際機関に対する政府開発援助実績	245
	図表III-24 主要援助国の政府開発援助総額に占める国際機関を通じた援助額の割合	245
	図表III-25 国際機関に対する政府開発援助実績の推移	245
	図表III-26 主要援助国の国際機関に対する拠出金・出資金等の実績(上位5か国)	246
<b>第3章</b>	<b>2006年度二国間援助案件リスト</b>	248
● 第1節	二国間贈与	248
1.	無償資金協力案件一覧(一般プロジェクト無償資金協力)	248
● 第2節	二国間借款	252
1.	有償資金協力案件一覧	252
<b>第4章</b>	<b>政府開発援助に関する主な資料</b>	255
● 第1節	日本の政府開発援助の軌跡(1945年～2007年10月)	255
● 第2節	政府開発援助に関する政策	267
1.	政府開発援助大綱(2003年8月閣議決定)	267
2.	政府開発援助に関する中期政策	273
3.	現行の分野別イニシアティブ一覧	287
<b>(参考) 諸外国の政府開発援助</b>		288
● 第1節	DAC諸国の政府開発援助実績	288
	図表III-27 DAC諸国の政府開発援助実績	288
	図表III-28 DAC諸国の政府開発援助形態別内訳	289
	図表III-29 DAC諸国の政府開発援助対GNI比	290
	図表III-30 DAC諸国の国民一人当たり政府開発援助	290
	図表III-31 DAC諸国の贈与比率	291
	図表III-32 DAC諸国の贈与の絶対額	291
	図表III-33 DAC諸国のグラント・エレメント	292
	図表III-34 DAC諸国の二国間政府開発援助のタイミング・ステータス	292
	図表III-35 DAC主要国の政府開発援助の比較	293
	図表III-36 DAC主要国の地域別実績の割合	294
	図表III-37 DAC主要国の二国間政府開発援助分野別配分	294
● 第2節	開発途上国への資金の流れ	295
	図表III-38 DAC諸国の開発途上国への資金の流れ	295
● 第3節	非DAC諸国の政府開発援助実績	296
	図表III-39 非DAC諸国・地域の政府開発援助実績	296
● 第4節	DAC援助受取国・地域リスト	297
	図表III-40 DAC援助受取国・地域リスト(2006年)	297

# 第I部 図表

図表I-1	ミレニアム開発目標(MDGs)の目標とMDGs報告書要旨	4
図表I-2	ミレニアム開発目標(MDGs)の達成状況(国連「MDGs2007 進ちょく図表」等から)	6
図表I-3	政府開発援助の増額に関する主要国と日本の公約	13
図表I-4	世界経済と開発途上国	15
図表I-5	世界平均気温の上昇による主要な影響	21
図表I-6	気候変動が主要な議題となる今後の外交日程	23
図表I-7	開発途上国における気候変動関係の支援需要	23
図表I-8	DAC諸国から開発途上国と国際機関への政府開発援助供与実績の推移	28
図表I-9	グラフで見る日本の政府開発援助の特徴	37
図表I-10	人間の安全保障の歴史	42
図表I-11	人間の安全保障基金の実績	43
図表I-12	政府開発援助改革、外務省機構改革の考え方	49
図表I-13	海外経済協力会議の開催実績(2007年11月1日現在)	49
図表I-14	国際協力に関する有識者会議の開催実績(2007年11月13日現在)	50
図表I-15	政府開発援助の10の新たな改善措置	56
図表I-16	「点検と改善2006」～より質の高いODAを目指して～	57
図表I-17	TICAD プロセス	59

# 第II部 図表

図表II-1	2006年の日本の政府開発援助実績	67
図表II-2	日本の二国間政府開発援助の形態別実績	68
図表II-3	日本の政府開発援助予算の推移・他の主要経費の推移	69
図表II-4	日本の二国間政府開発援助の地域別配分の推移(支出純額ベース)	69
図表II-5	DAC主要国の政府開発援助実績の推移(支出純額ベース)	69
図表II-6	DAC主要国の政府開発援助実績の推移(支出総額ベース)	70
図表II-7	DAC諸国における政府開発援助実績の国民一人当たりの負担額	70
図表II-8	DAC諸国における政府開発援助実績の対国民総所得(GNI)比	70
図表II-9	日本の政府開発援助実績と対国民総所得(GNI)比率の推移	71
図表II-10	日本の二国間援助に占める後発開発途上国(LDC)向け援助額	71
図表II-11	日本の二国間援助に占める後発開発途上国(LDC)向け贈与の割合	71
図表II-12	日本に滞在する留学生数の推移(2006年5月現在)	79
図表II-13	ダカール教育枠組とミレニアム開発目標の関係図	91
図表II-14	日本の理数科教育支援の実績	94
図表II-15	水と衛生分野の目的別供与実績	101

図表II-16	水と衛生分野の地域別供与実績	101
図表II-17	農林水産分野の地域別供与実績	105
図表II-18	持続可能な開発のための環境保全イニシアティブ(EcoISD)の実施状況(事例)	113
図表II-19	保健・医療分野の援助実績(地域別)	114
図表II-20	鳥および新型インフルエンザ関連の主な動き	115
図表II-21	マラリア対策のための蚊帳供与実績(2007年11月現在)	117
図表II-22	日本の結核分野に対する主な支援(1963年～2007年5月)	118
図表II-23	防災・災害復興分野の援助実績(災害形態別)	126
図表II-24	防災・災害復興分野の援助実績(地域別)	126
図表II-25	平和構築概念図	135
図表II-26	日本のイラク復興支援(2007年11月までに実施決定した支援)	138
図表II-27	ジャパン・プラットフォームを通じたイラク復興支援	139
図表II-28	対アフガニスタン支援の内訳(2007年11月現在)	142
図表II-29	日本のスーダンに対する平和の定着のための支援(2007年11月現在)	146
図表II-30	1998年度以降の対人地雷対策支援実績	149
図表II-31	東アジア地域における日本の援助実績	153
図表II-32	对中国円借款の推移	155
図表II-33	南アジア地域における日本の援助実績	157
図表II-34	中央アジア・コーカサス地域における日本の援助実績	162
図表II-35	アフリカにおける日本の援助実績	164
図表II-36	中東における日本の援助実績	170
図表II-37	「平和と繁栄の回廊」構想	171
図表II-38	拡大中東・北アフリカ(BMENA)構想を通じた日本の取組	172
図表II-39	中南米における日本の援助実績	174
図表II-40	大洋州における日本の援助実績	179
図表II-41	欧州における日本の援助実績	181
図表II-42	国別援助計画・現地ODAタスクフォースの立ち上げている国一覧	193
図表II-43	NGO・外務省定期協議会の開催状況(2006年度)	195
図表II-44	ジャパン・プラットフォームの仕組み	196
図表II-45	「国際協力について語ろう」およびODA出前講座の開催状況	205



# コラム

1. 青年海外協力隊	10
● ジブチで感じた「アフリカの力」～城戸武洋さん(職種:村落開発普及員)～	
● マーシャル版ラジオ体操をつくりたい!～中村祥子さん(職種:保健師)～	
● 日本古来の染料「柿渋」をネパールで利用～中山美奈子さん(職種:食品加工)～	
2. マラリアを撲滅するために	18
～住友化学株式会社の伊藤高明さんが開発したオリセット <sup>®</sup> ネット～	
3. 人間の尊厳を高めるために	45
～人間の安全保障基金を通じた支援の例から～	
4. スリランカの安全な血液供給を支える	55
～ハードとソフト、日本からのダブル支援の相乗効果～	
5. すべての小学校を「みんなの学校」へ	63
～日本の支援モデルをニジェール全国9,000校に展開～	
6. 日本方式をインドの地下鉄へ	75
～デリーメトロ建設に対する日本の支援～	
7. さいたま市水道局によるラオスの人材育成	81
～地方自治体が支援する人づくり～	
8. サハラ砂漠を無線で結べ	83
～モーリタニアの無線網構築に情熱をかけるベテランハムたち～	
9. 1杯のコーヒーをメキシコから世界へ	87
～マヤビニック生産者協同組合に対するコーヒー技術支援～	
10. アフリカにおける国際医療協力	99
～野口記念医学研究所での活動の思い出～ 元三重大学医学部小児科教授 櫻井實先生(寄稿)	
11. 一滴でも多くの水を一人でも多くの人に	104
～ニジェールのザンディール地方で井戸を掘った、株式会社 日さく 古賀孝さん～	
12. 炭を利用した、環境に優しい農村開発を目指して	107
～ベトナム・バクマー国立公園～	
13. 声なき感染症、シャーガス病との闘い	120
14. 大産油国サウジアラビアが省エネルギーに挑戦!	124
～東京電力株式会社 川野泰さんの熱い日々(寄稿)～	
15. スリランカ・津波被災者の自立支援	129
～グループ作業で住民の心のケアを～	
16. 今世紀最大の人道危機を救うために～スーダン～	144
17. ネパールにおける和平プロセス支援	158
18. モーリタニアで柔道教室!	168
～システム科学コンサルタント株式会社 山本圭一さん～	

19. 日本の和紙からアマゾンペーパーへ	177
～ <small>かみすき</small> ブラジル・アマゾン地域で紙漉 <small>はぐれぐも</small> を指導した、水俣浮浪雲工房 <small>かなざし</small> 金刺潤平さん～	
20. 経営者への「依存」から自分たちで行動する「責任」へ	198
～スリランカ紅茶農園での取組から～	
21. 生活の中に国際協力を	201
～(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン親善大使 酒井美紀さん～	
22. シニア海外ボランティア	202
● ヨルダンのIT産業の発展に必要なものとは～野間福彦さん(指導科目:システムエンジニア)～	
● ドミニカ共和国で政府機関初のISO認証取得を目指す～澤瀬和久さん(指導科目:品質管理)～	
● ガーナの病院で伝えた患者重視の精神～永田耕作さん(指導科目:保健・医療)～	